

平成 28 年度
学位記授与式 ー学長告辞ー

野に山に春の光があまねく降り注ぎ、吹く風に春の香りを感じ、春興のおもむくままに外出してみたい季節となりました。

本日、学位記を授与された 253 名の皆さん、修了誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。また、ご多用のところ、学位記授与式にご臨席賜りましたご来賓の皆様にも、深く感謝申し上げます。修了生の皆さんが学位を手にすることができたのは、皆さんのたゆまぬ努力に依るものであることは言を俟ちませんが、その努力は、家族、大学教職員、友人、現職の方は、上司、同僚、教育委員会の方々など多くの人たちによって支えられた賜物です。その人たちへの感謝の気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

社会の変化が加速し、科学技術の進歩、交通や情報網の発達等で、教育にも大きな改革の波が押し寄せています。人々の価値観の変化や多様化も進み、そのことも教育現場に大きな影響を与えています。これからさらにめまぐるしく変わると予想される社会を子供たちは生き抜いていかなければなりません。子供たちがどのような能力を身につけるかは、教育に委ねられており、教師の責任は重大であると言えます。

先日公表された小・中学校学習指導要領等の改訂のポイントでは、教育基本法、学校教育法などを踏まえ、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することが謳われています。知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を通して、「何ができるようになるか」を明確化することが求められています。また、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために、すべての教科等を、3 つの柱、すなわち知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等で整理することが示されました。また、「主体的・対話的で深い学び」の充実には、習得・活用・探究のバランスを工夫することが重要とされています。

教師には、これまで不易とされてきた教科指導力や学級経営力等に加え、外国語教育、ICT の活用などの新たな課題に対応できる力や、複雑化・多様化する課題に、組織的・協働的に取り組む力が必要とされています。

さて、全ての子供は、一人ひとり異なる個性や能力を持っています。私は湖を研究してきましたが、湖一つひとつが全く異なる形態や機能を有しています。しかし、湖総体としては、一般性や共通性があり調和が取れています。子供も全く同じかと思えます。教育は、子供の将来を考え、子供一人ひとりの個性や能力を尊重しながら遂行すべきです。全ての子供に輝かしい未来があります。全ての子供に対して、その成長を支援するという気持ちをいつも心に留め、子供の学ぼうとする意欲を引き出してほしいと思います。

本学で学ばれた皆さんは、様々な能力を獲得されたことと思います。それらの能力は、直ちに学校教育現場で役に立つものであり、まさに実践力と申しても過言ではありません。また、多様な課題解決には、顕在能力に加えて潜在能力や教師としての基礎教養も不可欠です。皆さんには、潜在的な能力も十分に培われたものと確信しています。現職の人も新たに教師となる人も、どうか自信を持って教壇に立ってください。

しかしながら、謙虚に自分と向き合うとき、教師として人間としての未熟さや力不足に気づくことでしょう。自分は未熟である、自分の完成度が低いと感じることは、極めて重要です。その気持ちがあつてこそ、さらに学び、人格を磨き、完成度を高めようとする姿勢になります。未完成のままでいい、完成を目指して頑張りたいという姿勢こそが大切です。まさに学び続ける人間像といえましょう。

これから学び続け充実した教師生活を送るために、自分を支えてくれる人の存在は欠かせません。それは、家族であり、友人であり、同僚であり、時には自分が教えている子供たちかもしれません。上越教育大学で出会った教職員、友人、地域の人たちとの絆も大切にしてください。皆さんとの連携を深めるために、大学はホームページの充実や、同窓会の整備など様々なことに取り組んでいます。

ところで、私は大学で30数年間教育に携わってきました。専門は地理です。大学で教え始めてから数年すると、果たして自分は学生に何を教えているのだろうという内的な疑問に悩むようになりました。ある日、ふと気づきました。自分は、地理を通して自分そのものを教えているのだ。それは、生き方と言ってもいいでしょう。考え方と言ってもいいでしょう。まさに自分そのものを教えていると言ってもいいでしょう。そのとき、それまでの疑問が氷解したことをいまでも鮮明に思い出します。

中国の思想家 孔子は論語の中で、人の一生で行っていくべき最も大切なことは何かと問われて、^{じよ}恕（おもいやり）と述べています。昨今のいじめ問題や道徳教育に関する議論を考えますと、孔子の慧眼に改めて敬服いたします。恕と言う言葉を、はなむけと致します。

結びに、健康に十分留意し、子供から周りの人から慕われ尊敬される教師を目指して、たゆまぬ努力を積み重ねていただくようお願いいたします。優れた教師を目指すことは優れた人格の獲得を目指して努力することと全く同じです。それは自らの人生を充実させることとも同義です。皆さんの人生が充実したものとなることを心より祈念し、告辞と致します。

平成 29 年 3 月 17 日

国立大学法人上越教育大学長 佐藤芳徳